

平成29年12月宮古市議会定例会一般質問通告一覧表

(質問順)

質問月日	質問者	質問事項	
12月15日 (金曜日)	26番 田中 尚 議員 (日本共産党)	1 政治姿勢について 2 公共交通網について	P 1 P 2
	12番 須賀原チエ子 議員 (ネクストみやこ)	1 移動期日前投票所の設置を 2 里の駅小国の進捗状況は 3 地球温暖化被害への早期対策を	P 3 P 3 P 3
	4番 佐々木 清明 議員 (尽政クラブ)	1 東日本大震災の教訓を踏まえた宮古市の防災計画について	P 4
	15番 古舘 章秀 議員 (ネクストみやこ)	1 市有林整備状況について 2 ナラ枯れ被害対策について	P 5 P 5
	22番 畠山 茂 議員 (新風クラブ)	1 公契約条例について 2 宮古市の健康増進事業と地域医療課題について	P 6 P 6
12月18日 (月曜日)	7番 中島 清吾 議員 (日本共産党)	1 災害公営住宅の家賃について 2 住宅リフォーム助成事業について 3 若者定住化と空き家対策について	P 8 P 8 P 8
	16番 工藤 小百合 議員 (ネクストみやこ)	1 地域防災計画・津波避難計画について 2 投票率向上について	P 9 P 9
	14番 橋本 久夫 議員 (ネクストみやこ)	1 水産資源育成におけるブルーカーボンについて 2 ICT活用の市民参加型インフラ管理について	P 10 P 10
	5番 白石 雅一 議員 (復興を考える会)	1 子どもの健康増進に食育を通し対策を 2 災害時のドローン活用について	P 11 P 11
	1番 今村 正 議員 (無所属)	1 森林伐採について 2 災害公営住宅の家賃について 3 水路(青線)の管理について	P 12 P 12 P 12

質問月日	質問者	質問事項	
12月19日 (火曜日)	3番 木村 誠 議員 (ネクストみやこ)	1 三世代同居と三世代住宅の推進について 2 消防団の維持と活性化について 3 宮古サーモン・ハーフマラソンのあり方について	P 13 P 13 P 13
	8番 伊藤 清 議員 (無所属クラブ)	1 農家所得向上を 2 鳥獣被害対策実施隊の安全と技能向上のため射撃場の整備を	P 14 P 14
	23番 坂下 正明 議員 (無所属クラブ)	1 室蘭市との交流活性化策について 2 水産資源管理と魚類・貝類の養殖事業の推進について	P 15 P 15
	21番 竹花 邦彦 議員 (新風クラブ)	1 宮古・室蘭フェリー航路開設で期待される産業振興課題について 2 新規高卒者の就職内定状況と雇用課題について 3 (仮称) 子ども・子育て基金事業について	P 16 P 16 P 16
	20番 落合 久三 議員 (日本共産党)	1 大不漁から水産加工業と地域経済を守る緊急課題とサケの回帰率向上策について 2 小学生までの医療費窓口負担を現物給付にすることについて	P 17 P 17
12月20日 (水曜日)	24番 松本 尚美 議員 (無所属クラブ)	1 地域別再生計画、施策について 2 台風10号豪雨災害の検証はどうなっている 3 市道(生活道)の改良、整備は誰が決めるのか	P 19 P 19 P 20
	10番 西村 昭二 議員 (ネクストみやこ)	1 今後の介護保険事業計画について	P 21
	9番 熊坂 伸子 議員 (無所属)	1 ダイバーシティのまちづくりについて 2 教育環境の充実について	P 22 P 22
	6番 鳥居 晋 議員 (復興を考える会)	1 宮古市の水産振興について	P 23

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月15日(金)

質問順位 1番

質問者 議席番号 26番 田中尚議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 政治姿勢について	<p>市政運営は地方自治法の2元代表制の具体化が求められていると考える。執行権を持つ市当局と議決権を持つ議会のチェックアンドバランスが理想目的だが、全国的に共通する問題として議会や議員が市の「追認機関」に化しているとの批判が聞かれる。</p> <p>宮古市の場合、直接民主主義が理念の「自治基本条例」を制定し、議会もそれなりに位置付けられているが、運用如何では、議会軽視を結果的に合理化する根拠になりかねないと考える。</p> <p>市の事業形成にあたり、中心市街地の巨大開発事業などで市が採用した「市民検討委員会」は、その例と言える。議会の対応に忸怩たる思いはあるが、議会は「改革」の途上であり、議員定数が22人の次期市議会の継続課題にならざるを得ない。</p> <p>議会改革の一環として、先ごろ実施した「議会報告会」では、住民から各班で津波震災遺構への対応が問われた。ある班では、議会も全会一致で遺構のエレベーター設置に賛成との誤った報告もあったようだが、最大の問題は遺構の保存にも関連する利用の在り方である。広島原爆ドーム型としたはずの遺構の利用方法が、遺構の景観にも影響を与える「エレベーター棟」の追加設置へ国会議員を通じて、その実現を働きかけていたとする、市の対応は政策変更にもなう議会との協議が不十分だったと考える。市長に議会軽視の認識はあるのか。</p> <p>同様の政策課題に田老総合事務所の整備問題がある。総合事務所庁舎という行政財産の新築にあたり「目的外使用」を理由に民間金融機関の店舗整備を設計時に取り込むことを市が適法とする根拠は不明である。場当たりの説明で当初から市の整備方針を変えようとしない、市の対応は遺憾であり議会軽視に通ずると考えるが市長にその認識は無いのか。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
2 公共交通網について	<p>公共交通網の整備は市の発展に不可欠として陸路では鉄道やバス、タクシーの利便性の向上を求めて来た。海路はフェリー航路の決定で新しい局面が開かれるが、鉄路は問題が解消されたところか、一層困難を抱えたのではないかと危惧する。</p> <p>以下、これまで一般質問などで提案してきた課題について、今日までの努力と今後の見通しについて伺う。</p> <p>① JR山田線、宮古～盛岡間の開通にともなう運行列車の本数や運行時刻への見解と改善策について。</p> <p>② 運行時刻とも関連するが、乗車利用の増進策について。</p> <p>③ 宮古～盛岡間で競合するバスとのすみ分けについて。</p> <p>④ JR東日本から三鉄に経営移管予定区間の内、宮古～山田間での部分開業の見通しについて。</p> <p>⑤ バス路線の効率的運用と並行してデマンドバス（タクシー）の導入見通しについて。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月15日(金)

質問順位 2番

質問者 議席番号 12番 須賀原 チエ子 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 移動期日前投票所の設置を	<p>今年6月に行われた宮古市長選挙の投票率は、男性62.10%、女性は64.21%で全体では63.21%でした。約4割の方々が投票を行っていないこととなりますが、その理由に投票所が遠いことが考えられます。</p> <p>神奈川県箱根町では今年投票所が遠い方々を対象に移動期日前投票所の設置を行っています。これはワゴン車に投票箱を積んで各地域に出向くものです。それにより投票率が向上しています。</p> <p>当市でも市町村合併により投票所の統廃合が行われました。投票が困難となる方々が増えることが危惧されます。</p> <p>投票率は選挙結果に影響することから、投票所が遠い方も容易に投票ができるよう、移動期日前投票所の設置が必要と思われますが、市の考えを伺います。また、その他投票率向上のための施策を伺います。</p>	
2 里の駅小国の進捗状況は	<p>里の駅小国は国道340号の休憩交流施設として、平成31年4月の開業を目指し準備が進められています。小国地域の発展のために重要な施設となることから、地域住民は大いに期待しています。そこで次の点について伺います。</p> <p>① 完成までのスケジュールについて伺います。</p> <p>② 経営形態をどうするのか伺います。</p> <p>③ 道の駅としての位置づけをどう考えているのか伺います。</p>	
3 地球温暖化被害への早期対策を	<p>地球温暖化により、食料を供給する農業や漁業のほか養殖業や水産加工業を含む水産業に様々な影響を与えることが懸念されています。農業では品質の低下、水産業では水産資源量の減少などが挙げられます。</p> <p>市ではこの地球温暖化による農業や水産業における問題をどのように捉え、どのような対策を講じようとしているのか伺います。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月15日(金)

質問順位 3番

質問者 議席番号 4番 佐々木 清明 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
<p>1 東日本大震災の教訓を踏まえた宮古市の防災計画について</p>	<p>東日本大震災は、これまで我が国が経験したことのない広域大規模災害であったため、その対応は困難を極め、数々の失敗を踏まえて、宮古市でも様々な試行錯誤を重ねつつ、災害応急対策、災害復旧対策、災害復興対策を進めてきました。このため数多くの防災に関する教訓を得られたと思っています。</p> <p>しかしながら、2016年4月に発生した熊本地震では、残念なことに東日本大震災の教訓が十分に活かされなかったのではないかと思います。なぜこのような大事な教訓が伝わっていなかったのか質問いたします。</p> <p>① 宮古市として東日本大震災の教訓を、市内外に対してどのように伝えているのか伺います。</p> <p>② 東日本大震災での津波の浸水深は看板等で表示していますが、津波到達地点も風化させないためにもはっきり示しておくべきではないかと思います。津波の表示についてどのように考えているのか伺います。</p> <p>③ 防潮堤の工事が最終段階を迎えていますが、防潮堤など災害予防対策に係る問題点は何か伺います。</p> <p>④ 近年、東日本大震災や今年の台風10号豪雨などの災害が発生し、今後も地球温暖化の影響と思われる大雨等の自然災害も予想されます。そこで宮古市として災害条例を作るべきではないかと考えますが、市の考えを伺います。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月15日(金)

質問順位 4番

質問者 議席番号 15番 古館章秀議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 市有林整備状況について	<p>毎年森林整備計画等に基づき市有林の森林施業を行うとして予算化され、植栽などに取り組んできている市有林について次のことを伺う。</p> <p>① 市有林は森林整備計画書ではどのように位置づけられているのか伺う。</p> <p>② 市有林の人工林植栽の目的と目標について伺う。</p> <p>③ 平成28年度決算では立木の推定蓄積量が示されているが、林齢に基づく広葉樹林の蓄積量をどのように捉え、林業振興に結び付けようとしているか伺う。</p> <p>④ 市有林において毎木調査を実施した林地について、その調査結果に基づいて、どのような取り組みをしているのか伺う。</p>	
2 ナラ枯れ被害対策について	<p>平成29年度宮古市経営方針の中で、林業振興について、発生が確認されたナラ枯れ被害への防除対策を進めることからのことを伺う。</p> <p>① 本年度予算に456本のナラ枯れ被害木駆除処理業務委託費が計上されているが、現在の処理状況と取り組みに対する評価について伺う。</p> <p>② 平成29年度における新たなナラ枯れ被害調査はどのように行われ、調査結果に基づく対策をどのように実施したか伺う。</p> <p>③ 森林整備計画書において森林病虫害の駆除及び予防の方針及び方法で、カシノナガキクイムシ(ナラ枯れ病を媒介する昆虫)等の森林病虫害被害に対して、抵抗性の高い森林整備を図るとし、原木として利用するナラ等にあっては計画的な伐採を行なうようとするが、どのような計画に基づき伐採されたか伺う。</p> <p>④ 市有林でナラ枯れ等の被害木が確認されているか。確認されているとすれば、早急に被害調査を含め民有林被害予防対策のための実証試験を含めた対策予算を計上して取り組むべきと思うが見解を伺う。</p> <p>⑤ 松クイ虫・なら枯れ被害対策については本市でも巡回等に取り組んでいるが民有林所有者も環境保全林としての意義に対しても協力している。対策は一自治体の問題としてではなく、森林保全問題として国がしっかり取り組むべきである。森林面積90%以上の本市から県や国に財源支援を含めた対策提言をすべきと思うが見解を伺う。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月15日(金)

質問順位 5番

質問者 議席番号 22番 畠山 茂 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 公契約条例について	<p>自治体による契約は税金を用いたものであることから、その実施にあたっては、効率的で透明性のある事務であり、市民生活の向上と活力ある社会の実現に寄与する契約となることが求められます。</p> <p>公契約条例の制定は、地域経済活性化の切り札として、また、市内の働き方改革、ワークライフバランス、子育て支援、女性活躍促進の観点からも急務と考えますが、本市の現在までの取り組みと今後の方針について伺います。</p>	
2 宮古市の健康増進事業と地域医療課題について	<p>少子高齢化・人口減少が進み、100歳時代が叫ばれるなか、いかに健康で生活できるか「健康寿命」が注目されています。このような状況下、医療費は年々増加傾向にあり、いかに健康保険制度を適正・公平に維持していくのが課題とされています。</p> <p>そこで、本市の健康増進事業及び地域医療について次の点を伺います。</p> <p>① 本市が策定した「データヘルス計画」によると、医療費は年々増加傾向にあり、中でも生活習慣病の治療が上位を占めています。また、死因別割合では、脳卒中死亡率が全国ワースト1位の岩手県よりも悪い状況にあります。そこで、基本的対策となる、生活習慣病予防健診受診率・がん検診受診率の現状と課題を伺います。</p> <p>② 国は平成30年度の医療・介護制度の同時見直しにあたり医療費の適正化及び抑制に向け一層の取り組みを促す方針です。本市は「みやこサーモンケアネット」を構築していることから、本制度がさらに普及することで、より多くの市民に質の高い医療サービスを提供していくことができると思います。そこで、「みやこサーモンケアネット」の普及状況と今後の課題について伺います。</p> <p>③ 岩手県は医師不足が全国40位と深刻な状況です。市民からは「待ち時間が2時間で診察2分」との声も聞かれます。宮古医師会や県立宮古病院と連携した医師の確保及び休診科の再開が急務と考えますが、課題と今後の取り組みについて伺います。</p>	



質問事項	質問要旨	摘要
2 宮古市の健康増進事業と地域医療課題について	④ 終末期医療に対して多くの国民や医療関係者の関心が高まっています。本人・家族が治療方法を選べる時代となった今、宮崎市では、「エンディングノート」を作成し、家族と共に終末期医療について考えてもらう取り組みを行っています。本市も導入に向けて検討すべきと考えますが、市の見解を伺います。	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月18日(月)

質問順位 1番

質問者 議席番号 7番 中島清吾議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 災害公営住宅の家賃について	<p>災害公営住宅入居6年目以降から段階的に低減措置が縮小し、市営住宅と同等の家賃へ変わることについて、入居者から不安の声が聞かれます。</p> <p>不安解消のため、入居6年目以降の低減措置について、市単独の施策の考えがあるのか伺います。</p>	
2 住宅リフォーム助成事業について	<p>以前は宮古型住宅リフォーム助成事業があり、全国的にも広く紹介されました。震災から6年9カ月が経過し、それに加え台風被害等があり、リフォームを考えざるを得ない状況の方々が増えて来ていると考えます。震災や台風等の補助金等では対応しきれなく躊躇、若しくは断念している方々もおります。</p> <p>また、老朽化や家族構成の変化、耐震化などリフォームの需要はあると考えます。新しい宮古型リフォーム助成制度を設けることについて、市の考えを伺います。</p>	
3 若者定住化と空き家対策について	<p>現在、当市の人口は減少の一途をたどっております。岩手県毎月人口推計速報によると、10月中における宮古市の人口動態の社会増減は21人減となり、県内14市で2番目の状況です。</p> <p>震災、台風等の影響もあると思いますが、若者を含め転出を食い止める方法として、低廉な家賃で生活し子育てができる環境を提供することが定住化につながると考えます。空き家の活用も含め市の見解を伺います。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月18日(月)

質問順位 2番

質問者 議席番号 16番 工藤小百合議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 地域防災計画・津波避難計画について	<p>1 東日本大震災から6年9カ月が経過しました。地域防災計画・津波避難計画について、見直しや改善をし、常に整備されていると思いますが、現時点での問題や課題は何か伺います。</p> <p>2 自主防災組織の活動状況及び地域課題について伺います。</p> <p>3 南海トラフ大地震で津波被害が想定される沿岸市町村を対象に行われた「津波防災ソフト対策自治体ランキング」が防災関係者の間で注目されています。先日、岩手日報社がこのランキングの採点方法を本県沿岸市町村に当てはめて採点した記事が掲載されましたが、このランキングに対する当市の考えを伺います。</p>	
2 投票率向上について	<p>1 投票所への無料送迎を行っていますが、利用者の声をどのように分析しているのか伺います。</p> <p>2 選挙権年齢が18歳へ引下げられましたが、その後行われた選挙での当市の投票率をどのように分析しているのか伺います。</p> <p>3 郵便などによる不在者投票制度がありますが、あまり知られていないうえ、対象者は重度の身体障害者及び要介護5の方とされています。 総務省の投票環境の向上方策等に関する研究会は6月、「要介護3、4の方も対象者とすることが適切」との報告をまとめましたが、当市の状況について伺います。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月18日(月)

質問順位 3番

質問者 議席番号 14番 橋本久夫議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 水産資源育成におけるブルーカーボンについて	<p>温暖化にともなう海水温上昇は、水産資源や藻場などの環境に大きな影響があるという。近年のサケやサシマ、アワビなどの漁獲量が低迷しているのも、温暖化の影響が指摘されている。またこの豊かだった沿岸域の漁場が「磯焼け」現象を起こしている。そのための藻場の回復が重要視される。藻場や海草類がCO<sub>2</sub>を吸収することで、温室効果ガス削減につながるブルーカーボンとして注目されている。このことから以下の点を伺う。</p> <p>① 宮古地域の磯焼けの実態はどのような状況なのか。</p> <p>② 藻場や海草類の現状はどうか。また対策はどのようなものか。</p> <p>③ 温暖化対策にもつなげる沿岸域の総合的な環境管理が必要と思う見解を伺う。</p> <p>④ ブルーカーボンの現状調査・解析・再生を通し、水産復興につなげたい。ブルーカーボンに対する認識を伺う。</p>	
2 ICT活用の市民参加型インフラ管理について	<p>地域の様々な課題を解決する手段の一つとしてICT活用がある。その課題対策の一つとして地域インフラの不具合についての情報収集に活用することができる。これは何か不具合を発見した市民が、市の担当者や他の市民と共有する仕組みである。ゴミの不法投棄、道路の欠損、公共施設への落書きなどを発見した際、自分の端末などで写真、動画などを撮り、専用アプリを使って行政の専用サイトに投稿するといった仕組みである。</p> <p>広大な面積を持つ本市においては、多くの市民の情報が必要である。また、本市では既にSNSなどの運用実績がある。市と市民とが協力して地域のインフラ管理に取り組む意識が醸成されるためにも、こうしたサイトの活用、システムの構築が必要であると考え。見解を伺う。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月18日(月)

質問順位 4番

質問者 議席番号 5番 白石雅一議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 子どもの健康増進に食育を通し対策を	<p>宮古市は全国平均に比べ、肥満傾向児の割合が高く、長年の課題と言える。</p> <p>そこで以下の点について伺う。</p> <p>① 肥満対策の一環として、学校では運動を推進しているが、その成果と課題をどの様に捉えているか。</p> <p>② 肥満対策のひとつとして、食育に関する取り組みを「宮古市食育推進計画」で行っているが、第2次計画の経過と推移をどの様に捉えているか。</p> <p>③ 平成31年度からの第3次計画策定に当たっては、子どもたちの健康増進のために、より食育を通じての対策を家庭とともに行うべきと考えるがどうか。</p>	
2 災害時のドローン活用について	<p>平成29年6月定例会において「災害対策に先進の技術導入を」との内容で、災害時におけるドローンの活用について質問した。全国的に、災害や防災のためにドローンを活用することが検討されており、行政と民間が提携や協定することが増えている。</p> <p>そこで以下の点について伺う。</p> <p>① 6月定例会では、ドローンの活用について「各機関等の取り組みを注視しつつ、災害情報の収集のみならず災害救助や運搬等への活用も含め、これらの情報収集に努める」との答弁だったが、その後の経過はどうか。</p> <p>② 全国的に見れば、消防団でドローン部隊が活躍している例もある。消防団の活性化や災害時における団員の負担軽減のためにも、宮古市でも消防団でのドローン部隊を検討するべきと思うがどうか。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月18日(月)

質問順位 5番

質問者 議席番号 1番 今村正議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 森林伐採について	<p>森林所有者等は、立木を伐採するときは「伐採及び伐採後の造林の届出書」の提出が必要です。</p> <p>当市における森林伐採について、下記について伺います。</p> <p>① ここ数年の盗伐、誤伐等の報告事例はあるか。</p> <p>② 代理者が届出た場合、森林所有者の伐採の意志の確認をしているか。</p> <p>③ 伐採業者、所有者と市当局の現地確認がなされているか。</p> <p>④ 無断伐採の事例はあるか。</p>	
2 災害公営住宅の家賃について	<p>公営住宅法では、入居して3年が経過すると収入基準を超える収入超過者は割増家賃が発生します。中でも災害公営住宅の場合は、高額になる例もあると聞いています。市では、軽減措置などについて考えているか伺います。</p>	
3 水路(青線)の管理について	<p>現在、無断で使用する例があるなど、水路の適正管理が求められております。次のことについて、どのような流れになっているか伺います。</p> <p>① 用途廃止について</p> <p>② 払下げについて</p> <p>③ 関係者全員の同意について</p> <p>④ 原状回復工事について</p>	

# 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月19日(火)

質問順位 1番

質問者 議席番号 3番 木村 誠 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 三世代同居と三世代住宅の推進について	<p>近年、共稼ぎ世帯が増えるのに連動して少子化が全国的な問題となっています。要因として出産・子育てへの不安や負担が大きいことが挙げられます。</p> <p>安心して子供を育てる環境づくりの一つとして、また、世代間の助け合いを図るためにも三世代同居を推進していく必要があると考えます。子供を両親に見てもらい、高齢世帯を若い世帯が支えるという関係は、現代日本の基盤と言うべき大切な文化であり、今こそ見直す時期に来ているのではないのでしょうか。</p> <p>現在、国では「三世代同居に対応した良質な木造住宅の整備促進（地域型住宅グリーン化事業の拡充）」「三世代同居に係る税制上の軽減措置」により、三世代同居が促進され始めていますが、宮古市ではそのような動きが見られません。三世代同居に対する見解を伺います。</p>	
2 消防団の維持と活性化について	<p>消防団員は火災・災害時以外にも訓練、機材の整備点検や防火訪問など、日ごろから地域のために活動を行っています。そうした地域の生活を守る消防団員が不足した状況は、安心・安全な生活をするうえで大きな不安に感じます。</p> <p>そこで、宮古市が行っている消防団員を増やす活動と現在従事している消防団員の活動をより良いものにするための環境整備について伺います。</p>	
3 宮古サーモン・ハーフマラソンのあり方について	<p>開催当初は市民の健康増進を目的に行われていた企画ですが、近年は市外、県外からの参加者が増え、交流人口の拡大から宮古市を代表する一大イベントになっています。今年度の申込み件数は3,279件と昨年より増え、参加者数という観点では成功したと考えられます。しかし、折り返し地点を含むコース設定や駐車場の確保など改善点があると思います。</p> <p>市外からの参加者のおもてなしの方法を含め、第31回大会をどのように総括しているのか伺います。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月19日(火)

質問順位 2番

質問者 議席番号 8番 伊藤清議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 農家所得向上を	<p>農家は収入確保のために、産直、スーパー、市場などにそれぞれ生産した野菜等を販売しています。しかしながら、6月から10月頃までの野菜(夏野菜、秋野菜)の種類や量は多いのですが、冬から春先にかけての野菜が非常に少なくなります。これは農家の方々が露地栽培をやっている方が非常に多く、冬場に野菜の栽培ができないことからと思われます。</p> <p>昔は冬にはたくさん雪が降り、翌年の雪解けまでは農家の仕事は休むのが当たり前でしたが、今は冬も暖かく雪も比較的少なくなってきました。パイプハウスがあれば冬場の野菜などの栽培ができ、農家は1年を通して出荷し、収入も1年を通して得られると思います。また、鳥獣被害対策にもつながると考えられます。中山間地域の農業振興のため、施設園芸も含めハウス栽培の更なる普及について、市の見解を伺います。</p>	
2 鳥獣被害対策実施隊の安全と技能向上のため射撃場の整備を	<p>農林水産省は、平成28年12月に鳥獣被害防止特措法改正で、捕獲技術高度化施設について、農林水産業に被害をおよぼす鳥獣の捕獲者の確保と技能向上のため、射撃場を整備するとしています。</p> <p>射撃場の整備は県外では既に行っているところもあり、県内では矢巾町で取り組んでいると聞きます。宮古常設射撃場は昭和40年代に整備された施設であり、老朽化し故障もしています。</p> <p>宮古市でも早期整備を検討すべきと思いますが、見解を伺います。</p>	



## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月19日(火)

質問順位 3番

質問者 議席番号 23番 坂下正明議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 室蘭市との交流 活性化策について	室蘭市とのフェリー航路開設をあと半年後に控え、 本市として、今後活発になるであろう、物産、観光等の 交流に向けて、どのような活性化策を考えているのか 伺う。	
2 水産資源管理と 魚類・貝類の養殖事 業の推進について	近年、サンマ、イカ、サケ等の不漁が続き、その影響 は漁業関係者のみならず広い範囲に及んでいる。水産 資源の回復を図るには、国の指導の下、国際的規制の具 体化や日本各地の漁業での徹底した資源管理が必要で あると感じる。また、天然資源に代わるものとして、産 学官連携による魚類・貝類の養殖事業に本格的に取り 組むべきと考えるが市の見解を伺う。	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月19日(火)

質問順位 4番

質問者 議席番号 21番 竹花邦彦議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 宮古・室蘭フェリー航路開設で期待される産業振興課題について	<p>宮古・室蘭フェリー航路開設まであと6カ月となった。フェリー就航に向けて、藤原埠頭のターミナルビル等の基盤整備工事も着々と進められている。</p> <p>については、次の課題について伺う。</p> <p>① 宮古港フェリー促進協議会と宮古市・室蘭市主催のセミナーや、宮古市のポートセールス等での観光、物産・物流事業者等のフェリー利活用に対する反応はどうか、市の受け止め方を伺う。</p> <p>② フェリー航路開設による観光や物流の促進など産業振興への期待は大きいものがある。フェリー航路開設に伴う宮古市の産業振興戦略を伺う。</p> <p>③ 観光客等の受入れや物産、物流の促進における課題点は何か。課題認識と今後の対応についての考え方を伺う。</p>	
2 新規高卒者の就職内定状況と雇用課題について	<p>新規高卒予定者の9月末現在の就職内定率は、全国では昨年同期比2.3ポイント増、県内は1.0ポイント減の状況となっており、高水準の就職率が見込まれている。</p> <p>企業の人材需要拡大が見られる中で、市内では水産加工場休止に伴う解雇問題が発生し、不漁による原材料の不足と価格の高騰等による水産加工事業所等の経営圧迫と雇用への先行き不安も聞かれる。</p> <p>については、次の課題について伺う。</p> <p>① 市内の新規高卒者の就職内定状況を伺う。あわせて、市内・管内事業所等への就職内定状況を伺う。</p> <p>② 11月末で工場休止となった岩手缶詰(株)宮古工場の解雇者に対する市の対応と支援策を伺う。</p>	
3 (仮称)子ども・子育て基金事業について	<p>(仮称)子ども・子育て基金創設に係る私の9月議会一般質問で、市長は、12月議会での基金条例提案と、基金活用施策では待機児童解消に向けた支援策や子育て支援拠点事業の充実などを検討していると答弁された。</p> <p>については、検討を踏まえた基金活用施策の具体的な内容を示されたい。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月19日(火)

質問順位 5番

質問者 議席番号 20番 落合久三議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
<p>1 大不漁から水産加工業と地域経済を守る緊急課題とサケの回帰率向上策について</p>	<p>1 市長は、サケ漁不振の原因とそれが地域経済に与える影響をどのように認識しているか伺います。</p> <p>2 サケの回帰率向上のための改善策が専門機関からふ化放流事業者に向けて進言されてきた経過がある。これらの経過と現状を鑑みて、市長はサケ回帰率向上のための基本的な方途をどのように考えるか伺います。</p> <p>3 大不漁が連続しており、このまま推移すれば水産加工業は重大な事態に陥る危険があり、地域経済の底抜けが危惧され、かつ市税確保にも影響が生まれると思うが、その対策として次の点で市長の見解を伺います。</p> <p>① 加工業者に予想されるリスクを最小にとどめるうえでグループ補助制度の償還据え置き期間延長を関係機関に要請すべきだと思うがどうか。</p> <p>② 固定資産税課税も据え置かれているが、これについても据え置き期間を延長するよう国に要望すべきであるがどうか。</p>	
<p>2 小学生までの医療費窓口負担を現物給付にすることについて</p>	<p>児童生徒の医療費無料化を小学校から高校まで実施している都道府県は、入院で25都道府県(53.2%)、通院で17都道府県(36.2%)、また県内全市町村が小学校から中学校あるいは高校までの無料化を実施している。国が「人づくり革命」を言うのであれば、この医療費無料化事業は国の施策にすべき重要課題となっている。児童生徒の医療費の窓口負担に関し、国は現物給付を採用する市町村に対しペナルティーを課しており問題である。国の減額措置の廃止を全国知事会も市長会も決議しているのは当然の対応と言える。</p> <p>そこで、次の点で市長の見解を伺います。</p> <p>① 国によるペナルティーの廃止を国に直接要請すべきだと思うがどうか。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
<p>2 小学生までの医療費窓口負担を現物給付にすることについて</p>	<p>② 当面小学卒業まで窓口負担を現物給付にするように県に強く要請すべきである。同時にそれが叶わない場合には市として現物給付に踏み出すべきだと思うがどうか。</p> <p>③ 現行の償還払いの手続きについても簡素化できる点があると思う。例えばすべての医療機関の窓口で医療給付申請書を備え付けてもらうことがその一例であるが、どうか。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月20日(水)

質問順位 1番

質問者 議席番号 24番 松本尚美議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 地域別再生計画、 施策について	<p>これまで市は地域活性化について、地域全体(市内)が等しく発展する事が重要であり、現有計画、戦略の施策を着実に実行する事が重要であり、一体的に取り組んでいる。合併の検証もしない。総合事務所はコンパクトなまちづくりを進める。地域協議会は地域の特性を生かした活動展開にかかわり地域の活性化に結びついている。等の立場をとってきました。</p> <p>私は合併の検証を踏まえ、地域内分権を前提とした総合事務所の強化、地域別再生計画の策定と実施を提案したが、全て否定されました。私は想定ではありますが、合併していなければ間違いなく少子高齢化、人口減少、産業、経済の衰退のスピード、減少率は緩やかであったと確信しています。</p> <p>地域力、市民力を、強い自治意識、危機感をばねに地域再生に生かさなければ、消滅します。特に中山間地域はまったなしであります。改めて市長の所感、見解を伺います。</p>	
2 台風10号豪雨災害の検証はどうなっている	<p>台風10号の検証について、議会から市長あてに「台風等豪雨被害に関する提言」として提出しています。個々の議員の質問を受ける中で一部回答がありました。議会での検証も含め行政としても検証をした上で、中間報告であっても回答があるべきではないでしょうか。</p> <p>新たなハザードマップを市民に配布するため、危機管理課は各地域の自治会、町内会、自主防災組織、民生委員などの役員に参加を求め、ワークショップを開催し、マップ改訂をとおして地域毎の課題抽出、対応策について話し合い、防災、減災、自主防災の意識向上を図っています。この取り組みについて理解はするものの、残念ながら検証が反映されたものでなく、9月定例会での一般質問の質疑のとおり、う回路、避難路の確保、避難者のサポートなどかみ合っておりません。単に災害発生原因、浸水、冠水対策に留まらない検証を行い、議会、市民に示すべきです。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
3 市道（生活道）の改良、整備は誰が決めるのか	<p>市民からの「いつまで待てばいいの」「自分たちの地区は見捨てられている」「住んでいるのが悪いのか」「世帯が少ないからか」等の諦めのため息に何と答えれば良いのか、ため息をつくのは私だけでしょうか。</p> <p>「公正、公平」って何だろう。優先順位は何を基準に、誰が決めるのでしょうか。運悪く私道。おじいさんの時代から変わらないとつぶやく80歳。救急車、車椅子も通れない生活道。限られた財源で対応が不可能と解りつつ、どう答えれば良いのでしょうか。市長に伺います。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月20日(水)

質問順位 2番

質問者 議席番号 10番 西村昭二議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 今後の介護保険事業計画について	<p>現在、宮古市では人口規模の最も大きい“団塊の世代”が75歳以上となる2025年を見据えながら、第7期となる、宮古市高齢者福祉計画・介護保険計画を策定しているところだと思われます。</p> <p>平成29年度版高齢社会白書の人口推計によると、65歳以上の高齢者の全体数は2042年をピークに減少に転じるものの、総人口が減少し続けることから、高齢化率は今後一貫して上昇を続ける見込みです。また、当面は75歳以上の高齢者の増加により、介護保険施設等のサービス利用者は高止まりになるとと思われます。そこで以下のことについて伺います。</p> <p>① 次期計画における介護保険施設等の介護サービスについて、こういった種類のものをどの程度整備していくのか、基本的な考えを伺います。</p> <p>② 介護サービスを拡充するためには、介護人材についても確保する必要があると思われませんが、全国的な介護人材不足である中、宮古市として、どのような施策により人材を確保するのか伺います。</p> <p>③ 介護保険施設等のサービス利用者の介護度が改善された場合に、その施設等に対する、宮古市独自の改善加算報酬を検討しているのか伺います。</p>	

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月20日(水)

質問順位 3番

質問者 議席番号 9番 熊坂伸子議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 ダイバーシティのまちづくりについて	<p>地域の発展と活力の維持のためには、多様な生き方を互いに尊重し、一人一人が自分らしく生きることができる、暮らしやすいまちづくりが今後ますます必要になると考えます。</p> <p>従いまして、全ての施策の基盤にダイバーシティのまちづくりの考えが重要だと考えますが、ダイバーシティに関する市長の現状認識とこれからの方向性についてお伺いいたします。</p>	
2 教育環境の充実について	<p>復興後のまちづくりの主役となる児童・生徒の教育の充実が今後は一層求められてまいります。</p> <p>児童・生徒の学力を高め、内陸との格差を解消し、進学率を向上させて、宮古で起業する若者を応援していくことが人材育成の基本であり、宮古市発展の基盤であると考えます。</p> <p>そのような観点から、教育環境の現状と今後の方向性について、市長の認識とお考えをお伺いいたします。</p>	



## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 12月20日(水)

質問順位 4番

質問者 議席番号 6番 鳥居 晋 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 宮古市の水産振興について	<p>本市の基幹産業である漁業、水産加工業は、漁獲量の低迷により厳しい経営状況に置かれている。サンマ水揚量、サケ漁獲量の大幅減、スルメイカの不漁、アワビの減産など底が見えない資源の低迷に先行き不安の声が聞かれる。</p> <p>また、経費の節減など自助努力も限界のなか、台風による自然災害と二重苦になり、漁業組合や加工業者の経営も圧迫されている。このような状況では「水産宮古」の将来が心配される。</p> <p>そこで、この危機を突破するために次の点について伺う。</p> <p>① サケの親魚不足が問われるなか、市内各河川での採卵数は例年どおり確保できる見込みか。</p> <p>② ママス(サクラマス)の採卵、放流を試みたいという漁協がある場合、設備投資などへの支援をする考えはあるか。</p> <p>③ 加工に要する魚が不足しているが、大型冷凍庫があれば加工業者への安定供給が可能になるのではないかと思う。宮古・室蘭フェリー航路開設により、北海道から冷凍魚が入ることが想定されることから、市で大型冷凍庫を建設する考えはあるか伺う。</p>	